



いっぽん!

第14号

■発行 伊藤ふみひろ後援会広報委員会 ■発行責任者 伊藤文博 ■連絡先 TEL025-562-3988
■公式ホームページ URL <http://www.fumihiro-ito.com> ■E-mail f-ito@fumihiro-ito.com



市民厚生常任委員会
第二次地域情報化調査推進
特別委員会 委員長
一般廃棄物最終処分場調査
対策特別委員会 副委員長

「一」挨拶

年末よりの早めの雪化粧で、長期予報の暖冬少雪も思わぬ大雪となつていますが、スキー場など冬のレジャー産業にとっては恵みの雪となりました。
新型インフルエンザの流行も心配ですが、予防を心掛け健康にご留意頂きたいと思っております。

糸魚川市は、8月末に世界ジオパークに認定され、いよいよ交流人口の拡大に向けて動き出しました。
糸魚川市の課題は山積みであり、そこに昨年来よりの新しい問題の噴出などもあって、取り巻く環境は厳しさを増しています。

この厳しい時代を乗り切るには強いリーダーが必要で、米田市長に期待するばかりですが、私は市議会議員として「有り合わせ精一杯」を尽くして参りたいと考えています。
保守系議員として米田市長を支える立場に変わりはありませんが、厳しく建設的に提言しながら方向性を正す姿勢で支えて参ります。

現在の糸魚川市の喫緊の課題として、

- ① ゴミ処理問題（最終処分場）
 - ② 子育て支援 「こども課」の創設
Ⅱ 児童福祉、保育・教育の連携
 - ③ ジオパークをツールとした交流人口の拡大 Ⅱ 「交流観光課」の創設
 - ④ 高齢者福祉の充実
 - ⑤ 新幹線駅舎問題
 - ⑥ 情報格差の是正
 - ⑦ 行政改革の推進
- など多くを抱えています。

米田市長他行政幹部との懇談の機会に、これらの問題について厳しい意見を言わせて頂きました。

ジオパークにもっと力を!

「こども課」の仕事は息の長い仕事になります。4月までじっくり構想を練ってスタートするべきですが、特に、世界ジオパークによる交流人口の拡大については、認定になった直後の今が勝負であります。



「ジオまる」と「ぬーな」

組織はそのままなので、企画財政課「ジオパーク推進室」と商工観光課「観光係」の机を並べて連携を図るべきと主張、その後、ジオパーク推進室は三階に移動しました。

◆今出来ることをフットワーク軽く改善して進めていくことがなぜ出来ないのか?

「やっています意識の壁」

「こうこうして連携を取らなければ・・・」
「連携は取っています」
「やってないとは言っていないません。もっと効果的にするにはこうした方がいいと言っているんです」

「やっている」と言っているその意識が、有意義な意見を聞くことを妨げています。

「〇〇の壁」という養老孟司さんの著書がありました。意識が邪魔をして新しい良い意見や知識が理解できない状況のことですね。

「マルチタスクシムンケ足」

強い連携を図らなければならない部署同士が、違う課・違う階でそれが上手く図れるのか?

当事者の思いとトップの思いに大きな隔たりがあると感じます。

■一般質問

今回は、九月議会と十二月議会での私の一般質問を紹介します。

◆九月議会

I 北陸新幹線開通に向けた駅周辺まちづくりと交通環境整備について

北陸新幹線開通を5年後に控え、駅舎の基本設計も示された。駅舎及び周辺まちづくりと交通環境整備について伺う。

1 駅舎と周辺まちづくりの設計内容について、簡易設計から基本設計に至るまでの協議経過と、今後の方針について。

①民間、又はそれを含む各委員会、協議会、まちづくりの会などとの意見交換による諸課題について、十分に検討し設計協議に持ち込まれた上で、設計に反映されているか
②駅舎設計上、留意した事項とそれに関わる今後の方針は

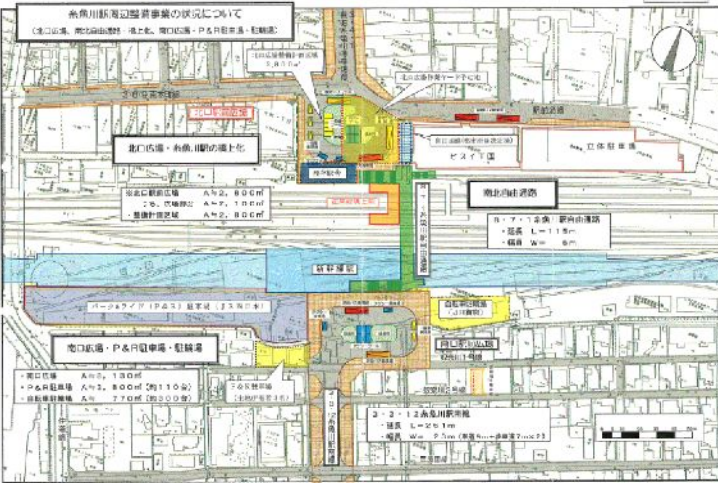
2 新幹線開通後の交通環境の確保、並行在来線は地域の大きな課題です。

①在来線の存続、経営母体の協議についての進捗状況は
②新幹線開通後の在来線（北陸線・大系線）の経営改善について、今の段階から取り組まなければならない課題は

駅舎問題では、協議が後手に回ってきた観があります。私は、このままいったら在来線問題も同じことになってしまいう懸念を、強く感じているわけです。
この問題は、市長が陣頭指揮を執ってしっかりと対処しなければなりません。
ある市民の声「責任者は、45億円の基本設計を見てびっくりしたとまるで他人事じゃないか」

駅舎については、その後の市とJR西日本との協議で事業費は増えても糸魚川市の負担分は大きく増えないことが分かりました。

糸魚川駅は、JRにとっては営業



施設でしかありませんが、糸魚川市にとっては「まちづくりの要」です。市民、特にまちづくりに関わっている方々の意見を良く聞きながら詳細設計に活かしていくべきです。

II 世界ジオパークのブランドを利用した交流人口拡大について

「夏までに策定」とされた「交流人口拡大プラン」の中間報告が示された。基本構想と実施計画で構成されるといプランだが、中間報告は基本構想部分であり、実施計画は各課から上がってくる段階だという。

8月23日に世界ジオパーク加盟が決定した現時点では、全てが遅れている。今後の課題について伺う。

- 1 「交流人口拡大プラン」で市民理解の促進は可能か
- 2 「交流人口拡大プラン」に関する今後のスケジュールは
- 3 「交流人口拡大」における、糸魚川市、商工会議所（商工会）、観光協会、民間各団体・個人、地域社会の役割についてどう考えているか。
- 4 認定後の庁内体制は現状で十分か

「交流人口拡大プラン」は、「世界ジオパーク認定」効果の一部分である交流人口を拡大する計画を文章で表したもので、これにより市民に

世界ジオパーク認定とその効果を理解浸透させるには不十分であり、市民の側に立って考えての表現方法が必要だと思います。



橋立ヒスイ峡

「ジオパークってなに？」
「ジオパークでどうなるの？」
「ジオパーク、ジオパークって他にやらないかやいけないことが沢山あるんじゃない？」
という声が、いまだに聞かれます。

「ジオパークで糸魚川をどうするのか」「ジオパークで糸魚川を何処に持っていくのか」を、分かりやすく市民に示す必要があります。
「交流人口拡大プラン」は夢を実現するための「手段」であり、

【「夢」Ⅱ「実現すべき姿」Ⅱ「目標」】ではありません。
まず、しっかりと「夢」Ⅱ「目標」を示すべきです。

市長は、「夢のある事業」として「世界ジオパーク」に取り組んだはずであり、政治家として市民に「夢」を語らなければなりません。

Ⅲ 教育現場のICT化について

経済危機対策臨時交付金事業で市内小・中学校にデジタルテレビ、パソコン、電子黒板、各種ソフトなどが整備される。どのように活用を図るのかについて伺う。

- 1 教育現場の情報化の必要性についてどう考えているか
- 2 教育現場の情報化の目的は何か
- 3 ICT設備活用についての方針は



◆ 十二月議会

I 行政改革・内部監査の推進について

4月の人事異動で、総務課に行政改革・内部監査担当の課長補佐を配置され、先の総務文教常任委員会でも現在の内部監査方針について説明があったところであり、内部監査の計画について伺います。

- 1 内部監査の目的、実施頻度と監査方法は
- 2 内部監査後の処置は
- 3 行政改革推進に対する内部監査の役割は
- 4 内部監査の進捗状況は

<教育訓練の実施>



※1: Plan(計画)Do(実行)Check(検証)Action(改善)の略
※2: PDCAサイクルで継続的に改善すること

「総合計画」が糸魚川市の全ての計画の基本です。「糸魚川市の将来像に向かって全ての政策、計画、業務が進められるべき」という視点で内部監査を行うことが必要です。ぶつ切りの内部監査では効果が上がりません。

ミスの防止だけでは、内部監査の本当の効果が得られません。内部監査を実施してPDCA※1サイクルを回し、スパイラルアップ※2することが必須の条件です。

また、内部監査の形骸化を防ぐため相互監査や改善提案などを行い、規格要求基準を順守維持することと、来年度の不具合の防止や潜在能力の発掘など実効性のある内部監査を行うことが必要です。

監査後の処置

監査された領域に責任を持つ管理者は、検出された不適合及びその原因を除去するために遅滞なく、必要な修正及び是正処置すべてがとられることを確実に行わなければならない。フォローアップには、とられた処置の検証及び検証結果の報告を含めなければならない。

すなわち、検出された不適合に対する必要な修正、処置と、再発防止に当たる是正処置は違うものです。良くない状況を改善する。そして再発防止の抜本的対策を講じなければなりません。

Ⅱ 認知症への取り組みについて

「認知症になっても住み慣れた町でいつまでも元気に」という理想に向かって認知症へ対応することが求められています。糸魚川市における認知症対応について伺います。

- 1 糸魚川市における課題は何か
- 2 介護保険制度では補えない課題とその対応は
- 3 在宅介護に対する手厚い支援が必要だが、糸魚川市独自の政策は
- 4 地域社会全般の認知症理解を促進するための施策は



地域や介護者の知識やサポートが必要です。独居、高齢者のみ世帯が増加し、別居している子供たちの初期段階での「気づき」「受け入れ」

が遅れる傾向があります。また、「施設依存」の高まりも傾向としてあります。

「認知症」への誤った認識は、周囲、近隣に隠し、抱え込み、周りも「関わり方」が解らず「孤立」する傾向を招きます。

「認知症」への理解の促進「関わり方」の周知、啓蒙が必要です。

社会の理解促進に有効な方法は？

色々な手段で社会理解を促進しなければならぬが、その手法的には手詰まりになっていないか。

広報・・・一度だけの掲載では、効果が薄い。読まない人もいる。

講演会・・・本当に聞かなければならない人は来ない。

HP・・・見られない人、見ない人も多い。

広報の手法の不足や、広報しなければならぬという熱意の不足がある



かもしれません。

「認知症」という文字にもっと触れる機会を増やすべきです。

時には、認知症特集を組み特集号を出す。大きい文字で、分かりやすく編集し、基本的な理解を促進する必要があります。家から出ない人にも情報を届ける努力が必要ですね。

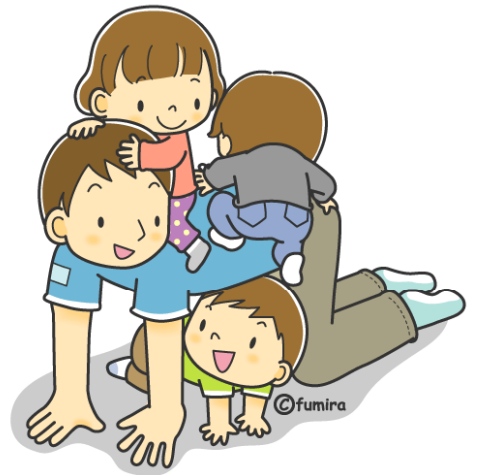
認知症の場合、複合的に具合の悪いところが発生し、赤ちゃん返りして衰えていく道筋を、広く理解してもらおうことが介護従事者への励ましにもなるということです。

心配な人を見かけたら迷わず声を懸けられる地域づくりも重要ですね。

「人に相談しろ」は難しい（現場の声）そうです。「認知症サポート」という素晴らしい制度も糸魚川市にはありますが、市民全体の理解を促進していく努力が、まだまだ必要ですね。

Ⅲ 「日本一の子どもを育てる」について

- 市長は「日本一の子どもを育てる」を提唱し「子ども課」の設置を計画しています。その基本理念と具体的施策について伺います。
- 1 子ども課設置の目的は
 - 2 子ども課の業務分掌範囲は
 - 3 子ども課の課題と対策は



「0才から18才」に関わる業務の一体化「一体感が自覚出来る」ことが最大のメリット（飯山市）
↓「やりやすい」だけではなく、効率化など業務改善に結びつける必要があります。

「子ども課」といっても、各係が今まで通りの業務だけ行っていたのでは何も変わらない。連携した活動だけではなく、新しい特色を出していかなければならない。

要支援幼児、児童に対しては、担当者が、対象児童と長く関わることで出来るメリットが考えられる。

危機管理 インフルエンザ、疫病、災害、犯罪に対する対応が早くなる。

【学校教育の重点施策】
高校との連携をより強化すべき

上越教育大学との連携強化は？
（飯山市は信州大学との連携を強化している。信州大学との連携による事業改善）

複式学級・特別支援学級への支援
糸魚川市の特色として市費での教員の配置を検討すべき。

伊藤ふみひろは、毎回、一般質問を行っています。

一般質問とは

議員が議会において、特定の議案とは関係なく、政策提案・提言を行ったり、役所の仕事・行政事務全般について執行機関の見解を求めることです。

市議会議員にとって自分の考えを市政に反映させるために重要な機会です。

編集後記

早いもので、新年も一ヶ月が過ぎてしまいました。一月は久々の大雪に振り回され、大変でしたね！
長期予報では、もう大きな寒波は来ないようなので一安心です。

ところで、もうすぐ冬期オリンピックが始まります。期待できる日本人選手も多く、競技内容も期間もスピーディーで見逃せませんね。私もスキーが趣味なので、大いに楽しみにしています。

最近では寒暖の差が激しいので体調管理が大変ですが、手洗いとうがいをしてしっかりと頑張りましょう。